

慶應義塾創立150年記念講演会「学問のすすめ21：文学のすすめ」 仙台会場
10月8日（月 祝日）13時30分開演（予定）、於・ホテル仙台プラザ 松島

文学のアメリカ

異 考 之

（慶應義塾大学文学部教授・アメリカ文学専攻）

- 1) 仮に初編の真偽版本を合して二十二万冊とすれば、之を日本の人口三千五百万に比例して、国民百六十名の中一名は必ずこの書を読たる者なり。古来稀有の発兌にして、亦以て文学の急進の大勢を見るに足るべし。（福沢諭吉「合本学問之勧誘序」、1880年）
- 2) 学問とは、ただむづかき字を知り、解し難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世情に実のなき文学をいふにあらず。（中略）されば今斯る実なき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。（福沢諭吉『学問のすすめ』初編、1872年）
- 3) 誰でも、ハード・パワーについてはよく知っている。軍事力や経済力によって他国に政策を変えるよう促せる場合があることは、よく知られている。ハード・パワーは誘導と脅し、つまり鉛と笞の両方に基づいている。だが、目に見える脅しや誘導を使わなくても、望む結果を得られることがある。（中略）ソフト・パワーとは時刻が望む結果を他国も望むようにする力であり、他国を無理やり従わせるのではなく、味方につける力である。ソフト・パワーは一は人びとの好みを形作る能力に基づいている。個人の水準では、魅力と魅惑の力は誰でも知っている。恋人同士や夫婦の間では、力関係は身体の大ささや強さで決まるとは限らず、魅力の不思議な作用で決まる。（中略）しかし、ソフト・パワーはハード・パワーに異存しているわけではない。「ローマ法王が何個師団をもっているというのか」とスターリンは嘲笑したが、法王はソフト・パワーをもっている。（ジョセフ・ナイ『ソフト・パワー——21世紀国際政治を制する見えざる力』[原著 2004年、日本経済新聞出版社、山岡洋一訳、2004年]第一章）
- 4) だがフェレイラは司祭の大声に顔さえあげず目を伏せたきり、意志も感情もない人形のように「この国は沼地だ。やがてお前にもわかるだろうな。この国は考えていたより、もっと怖ろしい沼地だった。どんな苗もその沼地に植えられれば、根が腐りはじめる。葉が黄ばみ枯れていく。我々はこの沼地に

基督教という苗を植えてしまった」。（中略）

「聖フラシヌスコ・ザビエルは」司祭（セバスチャン・ロドリゴ）はたまりかねたように手で相手の言葉を遮った。「日本におられる間、決してそんな考えは持たれなかつた」 （中略）

「お前には何もわからぬ。（中略） デウスと大日を混同した日本人はその時から我々の神を彼等流に屈折させ変化させ、そして別のものを作り上げ始めたのだ」 （遠藤周作『沈黙』[新潮社、1966年]、第七章）

5) きびしい衆人環視の的になっているというこの強烈な意識から、緋文字を身につけた女がやつと解放されたのは、 群衆のほすれに、否応なしに彼女の心を奪った、ひとりの者の姿を認めたからだ。インディアンがひとり、民族衣装を身につけ、そこに立っていた。しかし赤い肌をした連中がイギリス人の入植地に姿を見せるのは珍しいことではなかった。このような場合へスター・プリンの注意を惹くはずはなく、まして彼女の心から、その他すべての事物や観念を排除してしまはずがなかった。そのインディアンはそばに、しかもあまやかに仲間といった風情で、ひとりの白人が文明人の衣装と未開人の衣装を奇妙に取り合わせて身につけて立っていたのである。

（ナサニエル・ホーソン『緋文字』第三章[原著 1850年、八木敏雄訳、岩波文庫、1992年]

6) I remember

Those are pearls that were his eyes,

'Are you alive, or not? Is there nothing in your head?

But

O O O Shakespetherian Rag (T.S.Eliot, "The Waste Land," 1922)

7) 旅人は待てよ

このかすかな泉に

舌を濡らす前に

考へよ人生の旅人

汝もまた岩間からしみ出た

水霊にすぎない

この考える水も永劫には流れない

永劫の或時にひからびる

ああかけすが鳴いてやかましい （西脇順三郎「旅人かへらず」,1947年）